

住み心地評価低下の要因分析（自由意見比較）

1. 生活利便性（交通・買い物）の質的悪化

両年度とも不満はあるが、R7は明らかにトーンが違う

【R3】

不便ではあるが「仕方ない」
車前提の生活を受容



【R7】

「車が使えなくなったら終わる」
「買い物・移動が現実的に厳しい」

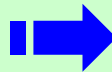
⇒ “不便” → “生活できない不安” へ変化

2. 雇用・働く場（悪化の核心）

R7で明確に増えているキーワード
仕事・働く場所・企業誘致

【R3】

雇用への言及は点在



【R7】

「働く場所がない」
「若者が残れない」

⇒ 人口減少の“原因”として認識され始めた

3. 医療（特に産科）の不安増大

R7で特徴的に出ている
産科・医療体制・不安

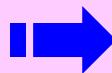
⇒ 生活の質の問題 → 命・将来の問題へ格上げ

4. 人口減少の“体感化”

R7の特徴的表現：人が減っている

【R3】

人口減少は“認識”



【R7】

人口減少は“体験”

⇒ 抽象的課題 → 日常の実感へ

5. デジタル化へのストレス（新規要素）

R3にも少しあるが、R7で顕在化
・デジタルについていけない
・高齢者の不安

⇒ 高齢化×デジタル化のミスマッチ